

障害者の生活支援と権利擁護

～精神障害者が地域で安心して暮らすためのメッセージ～

わが国では、いまだに約 33 万人の精神障害者が入院しています。その中には、すでに入院治療が必要ではなくなった社会的入院者といわれる人たちが約 7 万人いるといわれています。そこで、地域で生活されている方はもちろんのこと、地域での単身生活の経験がなく、長期入院によって、その能力が衰えてしまっている精神障害者の地域での生活支援の必要性が叫ばれています。

また、精神障害者の多くが、病気から派生する障害以外に、無理解や誤った認識から生じる偏見や差別、社会から隔離されていたことによるハンディキャップなどから、地域社会で生活していくうえで様々な困難を抱えているのです。

2006(平成 18)年、本協会権利擁護委員会では、精神障害者の自立生活を支援していくために必要な情報や知識、生活の現状と権利擁護に関する活動事例、課題等を「精神障害者の自立生活を支えるための『権利マニュアル』」としてまとめました。同年 12 月に「障害者の権利条約」が国連で採択されたことを受け、昨年度は、権利条約に照らした「精神障害者への支援ハンドブック」を作成しました。そうしたこれまでの活動は、広く市民、障害当事者、家族、支援者などに精神障害者の意識を啓発するとともに、実際の生活や支援に役立ててもらうことを目的としたものでした。人権にかかわる問題は障害を抱えて生きる人たちにとっては、日常生活に直結する問題です。

そして、今年度は、独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成金による「精神障害者の生活支援と権利擁護に関する普及啓発事業」の一環として、精神保健福祉にかかわる専門職、障害者、家族、ボランティア、一般市民を対象としたハンドブックの作成に取り組んでいます。その目的は、市民間において精神障害者の人権について理解を得ることを通じて権利擁護を推進し、精神障害者の地域社会での自立生活や社会参加の支援に寄与することであり、完成したハンドブックの普及、精神障害者の人権に係る啓発を目的として、全国3か所で「障害者の生活支援と権利擁護～精神障害者が地域で安心して暮らすためのメッセージ～」と銘打ったシンポジウムを開催する運びとなりました。

障害者の権利条約の批准をめざした動きも活発化してきている昨今ですが、精神障害者の人権への取り組みは他障害と比較してまだまだ出遅れた状況にあることは否めません。そうした現状を踏まえ、前半では障害者の人権状況と生活支援の視点について共有していただけるような講演、後半のシンポジウムでは多様な経験を踏まえたシンポジストからの話題提供と、参加者とのディスカッションを予定しています。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

■開催日 ※会場までの交通アクセスは本協会ウェブサイトからご確認ください。

[東京都会場] 2011年2月19日(土) / KFCホール(東京都墨田区)

＜基調講演＞堂本 暁子さん(前千葉県知事・障がい者制度改革推進会議構成員)

[北海道会場] 2011年3月5日(土) / 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)

＜基調講演＞大熊 由紀子さん(国際医療福祉大学大学院教授・元朝日新聞論説委員)

[福岡県会場] 2011年3月19日(土) / クローバープラザ(福岡県春日市)

＜基調講演＞林田 スマさん(フリーアナウンサー・元RKB毎日放送アナウンサー)

■開催時間 13時30分～16時30分(開場・受付13:00から)

※各会場とも同じ時間になります。

